

屋久島国割岳西斜面を天然記念物地域とする要望書

要望

霧島屋久国立公園の第一種特別地域である、屋久島国割岳西斜面を天然記念物として地域指定されるよう要望いたします。

理由

1. この地域には、日本列島固有の大型ほ乳類であるニホンザルとニホンジカそれぞれの亜種であるヤクザルとヤクシカが多数生息している。
2. 種の社会、生態、遺伝的特徴を野生状態で保つのに必要な生息地の面積や個体数と個体群構造については、いまだ学問的には明らかではない。しかし、その生存のために一頭当たりきわめて広い面積、複雑な社会交渉を必要とする動物であるニホンザルやニホンジカにとっては、大面積のまとまった森が必要である。幸いにも、この地域に残る約 10 km²の人手のほとんど入っていない照葉樹林は、生物群集、特に大型ほ乳類保護には好適である。
3. ヒマラヤから東に伸びる照葉樹林の東端に位置する西南日本の森は、日本の文化を育んだ森である。とくに屋久島の森は、日本列島の植物的自然の凝縮した希有な状態であると高く評価されている。西南日本の大部分の照葉樹林が有用針葉樹林に変わった現在、多種多様の動植物が生存する本地域の森は、日本固有の生物の進化の舞台であり、遺伝子貯蔵庫としても重要である。
4. この地域に残る約 10 km²のまとまった照葉樹林を厳正に保全することは、日本の照葉樹林の生物群衆の保護、とくに大型、中型のほ乳類にとっては、最後の砦の一つであることは疑いのない事実である。
5. 本地域には推定 20 群 600 頭のニホンザルが高密度に棲息しており、西南日本の大部分の照葉樹林が有用針葉樹林に変わった現在、そこはニホンザルが多数群連続して照葉樹林に分布している日本で唯一の地域である。
6. この地域の互いに隣接する 5 群のニホンザルの群れと個体の生活史が、十数年にわたって詳細に研究されている。それゆえ、この地域は日本の霊長類学の発展に不可欠なフィールドである。
7. 本地域の上部域は、国有林であり国割岳学術参考保護林である。下部域の民有地には、現在まったく人は居住せず、農園地もなく植林地もわずかである。したがって、私権との調整も解決可能だと考えられる。
8. 本地域の南の尾根は、すでに史跡名勝天然記念物地域となっている。

国割岳西斜面は、以上の諸特徴を持つ非常に価値の高い文化財であり、ニホンザル研究の発展にとっても枢要の地域である。現在、屋久島の高地の針広混交樹林の保全はさまざまになされているが、低地照葉樹林は低質広葉樹林として伐採されつづけており、その保全は適切とはいえない。したがって、当学会は当該地域を日本固有の照葉樹林の生物群衆の保護、とくにサルやシカなどの大型ほ乳類の保護を目的として、天然記念物として地域指定がなされるように強く要望する。

日本霊長類学会
会長 河合雅雄